

# 2019年度(平成31年度)「自ら考え学ぶ授業づくり」アクションプラン

〈学校用〉

校番(74)番 福山市立神辺小学校

## 1 育成する力(21世紀型“スキル&倫理観”)

育成する21世紀型“スキル&倫理観”	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力
めざす子ども像(21世紀型“スキル&倫理観”を身に付けた児童生徒の姿)	既習事項と新たな知識・技能を関連付け、今後の学習でも活用できる知識・技能として定着している。	課題解決のために必要な情報を収集し、比較・分類したり関連付けたりして、筋道立てて考えている。	既存の知識と関連させて自ら課題を見付け選択すると共に、学習の仕方や進め方を振り返り、次の学習や生活に生かそうとしている。

## 2 授業の現状

指導者から提示された題材について、素直な疑問を出し合い、その解決に向けて話し合うことはできるが、互いの考えを関連付けて理解を深めたり、以前の学習と関連付けて課題解決に活用したりすることは十分でない。

転換

## 3 めざす授業の姿

児童が自ら課題を発見し、自己の課題を解決するために、必要な既存の知識・技能をもとに判断・活用したり、友達と対話したりすることを通して、粘り強く課題解決に取り組む。また、自己の学びのプロセスを振り返り、自らの学びや成長を実感することを通して、次の学びの意欲へと繋げる。

## 4 めざす授業に向けた取組の具体

4月からの取組	8月末の状況	9月からの取組	12月末の状況	1月からの取組	2月末の状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の興味・関心を起点とした授業及び単元づくりに取り組む。</li> <li>授業中の児童の発言に応じて柔軟に授業を展開し、教師はファシリテーター役として児童の学びの深まりを支援する。</li> <li>児童が自らの学びを振り返り、獲得したり発揮したりした力を次の学習や生活へと繋げられる場を確保する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アンケートの結果、84%の児童が授業が楽しいと感じており、82%が対話による考えの広がりが深まりを実感していた。</li> <li>○アンケートの結果、学習者起点の学びづくりは96%、ファシリテーターとしての役割は82%の授業者が意識して取り組んでいた。</li> <li>△アンケートの結果、疑問に思ったことや新しく気付いたことに対して進んで働きかけている児童は78%であった。</li> <li>△アンケートの結果、次の学習や生活へ繋げるための振り返り場を確保できていた授業者は50%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師のしゃべり過ぎをやめ、実際に操作したり、試したりして児童が試行錯誤できる活動を充実させる。</li> <li>・様々なパターンで児童の反応や思考を予想しておき、柔軟に授業を展開できるようにする。</li> <li>・習得した知識・技能や学び方を活用できる場面を取り入れる</li> <li>・児童の実態に応じて、自己の成長に気付くことができる自己評価の視点や段階を示して振り返りを促す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アンケートの結果、授業が楽しいと感じている児童は88%で、8月より4%向上した。</li> <li>○アンケートの結果、児童が思考錯誤できる活動を意識している教師は95%、振り返りを促している教師は86%であった。</li> <li>△アンケートの結果、疑問に思ったことや新しく気付いたことに対して進んで働きかけている児童は76%で、あまり変化がみられなかった。</li> </ul>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 児童が自分の関心や習得の段階に応じて、課題や学習方法、自分の立場等を選択して取り組める場を設ける。</li> <li>2 活動や話し合いの目的に合わせて、観点や形態を変えて、学習集団を分けたり、混ぜたり、入れ替えたりする。</li> <li>3 単元内に1~2時間程度余裕を持って単元計画を立てることで、児童の関心や躰きに応じて、柔軟に時数配分を調整できるようにする。</li> <li>4 学びのプロセス(どのような道筋でわかったか又はわからなかったか)を振り返らせ、自己の学びの成長への認識を促す。</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○アンケートの結果、1は95%、2は90%、3は81%の教師が肯定的に回答しており、児童の多様な学びに寄り添うことを意識して授業改善に取り組むことができた。</li> <li>△アンケートの結果、4については38%の教師が「あまりできなかった」と回答していた。振り返りの機会は設けているが、児童が学習のプロセスを振り返り、自ら修正したり、伸びを実感したりできるような改善を図る必要がある。</li> </ul>

## 5 取組の結果等

数値は2019年度(令和元年度)調査等の状況

全国学力・学習状況調査(%) ( )は県平均との差	〈児童生徒質問紙調査〉(%) (肯定的評価)
国語 64(-2)	自分にはよいところがある 85
算数 64(-4)	先生はよいところを認めてくれる 79.3
	将来の夢や目標を持っている 83.9
	人の役に立つ人間になりたい 91.9

## 体力づくり改善計画【広島県体力・運動能力調査から】

県平均以上項目数	前回目標値に対する結果	重点課題	改善する取組内容・方法
(男子) 22/48	〈昨年度重点項目〉 「上体起こし」「ボール投げ」「長座体前屈」。	○男女ともに「長座体前屈」、「反復横跳び」、「ボール投げ」が県平均かつ全国平均値より低い学年が多い。	○「反復横跳び」→ 体育委員会で敏捷性を伸ばす運動を企画、実施する。
(女子) 24/48	〈目標値〉県平均かつ全国平均値の達成項目を58項目(60%)。 〈結果〉達成項目46項目(48%)	○運動習慣に関するアンケートによると、1日の運動実施時間が30分未満と回答する児童の割合が、約23%であり、割合を減らしていく必要がある。	○「長座体前屈」→ 体育の時間の準備運動に、柔軟運動を取り入れる。週初めの体育の授業で、柔軟性の高まりを評価し、恒常的な取り組みにする。

目標値
○「長座体前屈」、「反復横跳び」を県平均値かつ全国平均値以上にする。
○各学年重点に置いた種目を県平均かつ全国平均値以上にする。

## 福山100NEN教育アンケート[対象:授業者](%)

質問項目	当てはまる	当てはまらない
仕事にやりがいを感じている	100	0
仕事に充実感がある	95.2	4.8

## 児童生徒アンケート(%) (12)月実施

質問項目	当てはまる	当てはまらない
授業が楽しい	86%	14%
自分のよさは、認められている	72%	28%

## 「基礎・基本」定着状況調査〈児童生徒質問紙調査〉(%) (肯定的評価)

学校へ行くのは楽しい	89.9
「やりなさい」と言われなくても、自分から進んで勉強をしている	78.7
授業では、課題について、「なぜだろう」「やってみよう」と思う	86.5
授業では、友だちと話し合うなどし、考えを深めたり広げたりしている	84.3

## 暴力行為発生率・不登校児童出現率(%) (2)月末現在

暴力行為	1.3	不登校	0.5
------	-----	-----	-----